

授 業 科目名	【 G 】	学習・発達論	区 分		開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	学習・発達論				【 H 】 3		【 H 】 2
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【 G 】 教員の免許状取得のための選択科目						
		【 H 】 教員の免許状取得のための選択科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程							
サブ タイトル	発達観と教育観を伝える					担当者	田中 将之	
授業概要	【概要】	一般に学習とは、経験によって新しい行動傾向を獲得したり、既存の行動パターンに熟達したり、あるいはそのような行動の変化を可能にするような内的過程を獲得したり組織化、再組織化したりすることをいう。他方、発達とは、人間の個体発生の過程に焦点をあて、受胎から死に至るまでの人間の心身における形態や機能の成長と変容の過程をさす。本講義では、一般的な発達理論と共に、特別な支援を必要とする児童、生徒の学習上又は生活上の困難にも着目し、彼らの個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解し、彼らの十全な発達、成長を具体的に支援する方法を考えていく。						
	【到達目標】	① 受講者が精確な発達観、教育観を生徒に伝えられる。 ② インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の関する生徒の理念や仕組みを理解している。 ③ 発達障害を有する児童・生徒の生活上の困難及びその指導法についての基礎的な知識を理解している。						
履修条件	【Gカリ】 2024年度入学生は3年生、2023年度以前の入学生は2年次で受講可能。 教育原理、教育心理学、教育行政学の単位認定者で、3年次以降の者。(教育)心理学、精神医学に深い関心をもつ者。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	教育原理, 教育心理学, 生徒指導論							
教科書	特に指定しない。							
参考書	特に指定しない。							
評価方法	授業中に指示するレポート課題・テスト(70%)、受講意欲・グループワーク等を行う際の姿勢・態度(30%)で評価する。なお、予告をせずにノートの提出を求めることがあり、提出の有無・内容も評価に入れるものとする。							
フィードバック 方法	毎時の評価について、特に良好なものについては、レフレクションカードに良い面を記入して返却する。レポート提出期間経過後に評価ポイントを学生に伝える。テストについては評価の重要点を説明する。							
評価基準	S・A: 授業内容をよく理解しており、応用力もある、B: 授業内容を理解している、C: 最低 限の基礎力を備えている、D: 基礎力が不足している、E: 基礎力が著しく不足している、F: 評価不能 欠席時数過多やテストを受けていない場合はF評定とする。							

授 業	【 G 】	学習・発達論	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】	学習・発達論			【 H 】 3		【 H 】 2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス 発達の定義の再確認						
	予 習： 心理学でいうところの発達とは何か、予習しておく。			復 習： 発達を自分の言葉で説明する。			
2	知能Ⅰ 知能の分類						
	予 習： 知能にはどのような分類の仕方があるか予習しておく。			復 習： 著名な心理学者の知能に関する学説を整理しておく。			
3	知能Ⅱ 知能検査法						
	予 習： 知能検査について、予習しておく。			復 習： 著名な心理学者の知能に関する学説を整理しておく。			
4	知能Ⅲ 知的障害と特別支援教育						
	予 習： 特別支援教育について、予習しておく。			復 習： 知的障害の内容を整理し、まとめておく。			
5	記憶Ⅰ 記憶の分類						
	予 習： 記憶にはどのような分類の仕方があるか、予習しておく。			復 習： 記憶に関する分類について整理し、まとめておく。			
6	記憶Ⅱ 記憶に関する新しい学説						
	予 習： 記憶の植え付けは可能か、予習しておく。			復 習： 記憶に関する最新の学説について整理し、まとめておく。			
7	適正処遇交互作用						
	予 習： 適正処遇交互作用とは何か、調べておく。			復 習： 具体的な例を出して、適正処遇交互作用が説明できるようにする。			
8	学力と学力不振						
	予 習： 学力不振の要因について、予習しておく。			復 習： 授業の内容を整理し、まとめておく。			
9	学習性無気力						
	予 習： セリグマンの学説を予習しておく。			復 習： 学習性無気力の克服法を整理し、まとめておく。			
10	創造性						
	予 習： 創造性を発揮できる環境について予習しておく。			復 習： 創造性を高めるための方法について、まとめておく。			
11	社会性, 向社会性とは何か。						
	予 習： 向社会性について、予習しておく。			復 習： 向社会性の具体的な方法について、まとめておく。			
12	学級の心理学Ⅰ 学級集団の心理						
	予 習： ソシオメトリーとは何か、調べておく。			復 習： 学級集団の心理について、整理しておく。			
13	学級の心理学Ⅱ PM理論とは何か						
	予 習： PM理論とは何か、調べておく。			復 習： PM理論とその応用について、整理し、まとめておく。			
14	学級の心理学Ⅲ レヴィンのリーダー論						
	予 習： どのようなリーダーが学習面で成果をもたらすのか予習しておく。			復 習： リーダーに関する学説を整理し、まとめておく。			
15	授業のまとめ, テスト						
	予 習： これまでの授業内容を整理しておく。			復 習： テストで出題された事柄を整理し、まとめておく。			
その他	・アクティブラーニング型授業を実施することから、座席は指定します。なお、授業の順序、内容は受講者の反応を見極め、変更をすることがある。 ・グループ討論等には積極的に取り組むこと。 授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。						